

表通り裏通り

# 新たな目標を目指す ママさんたち



ゴールが決まって大喜び!



外は雨、室内で練習



相手に向かってのパス練習



練習後、使用した体育館に一礼



ディフェンスに囲まれて、どうする?



「ここで蹴るのを意識して」

## マミーズが結成された理由

全世界が熱狂した、サッカーのワールドカップドイツ大会が閉幕しました。サッカーは、世界じゅうで愛されているスポーツの一つ。国内はもとより、市内にも子どもから大人まで各年代のチームがあり、サッカーを楽しんでいます。今回紹介する、川越マミーズFC（以下マミーズ）も市内にあるチームの一つ。ママさん中心の、市内では珍しいチームです。

マミーズが結成されたのは、平成十四年。当時、女子サッカーチームが少なく、女子小学生が加入しているチームも対戦相手が少なく、試合をする機会がほとんどありません。数少ない試合の機会である、市民体育祭の女子サッカーの部では、年上の人たちのチームが相手のため、女の子たちのチームはなかなか勝てませんでした。

そこで、お母さんたちが集まり、「子どもたちに試合で勝つ喜びを感じてほしい」「子どもたちといっしょにサッカーを楽しみたい」、という思いが生まれ、ママさん中心のチームが誕生しました。結成当時、サッカー経験者はいませんでした。

## 目標に向かって

四年がたち、女子小学生のチームは、ほかにチーム数が増えたため、地区のリーグ戦に参戦するようになり、マミーズ結成当初の役割は果たしました。それでも、マミーズは活動を続けています。それは、新たな目標ができたからです。

練習は、毎週日曜日に川越第一小学校または、県立川越養護学校のグラウンドで行っています。現在のメンバーは十八人。新しく加入する方たちも、結成当時と同様、初心者です。自分の子どもがサッカーをやっている、自分自身でもやりたくなった、という方が多いようです。コーチの佐藤正廣さん（55



歳・大仙波）は「お母さんたちが子どもとサッカーを楽しんでもらえればいいと思います」と言います。

そして、現在の目標は、市民体育祭での一勝。結成以来、女子小学生のチームが参加しなくなっても毎年出場をしていて、年間の日程で中心となる大会です。しかし、いまだ一勝をあげていません。

「得点をあげたことはあるのですが……」と結成当時のメンバーである内藤千幸さん（42歳・西小仙波町二丁目）。この夏、チーム名を「川越マミーズFC」から「川越シュガートレーFC」に変えて、「ことしこそは」という思いを胸に、十月に行われる市民体育祭で初の一勝を目指します。

まちのできごと  
川越市の面積は109.16km<sup>2</sup>

# 109パレット



ボクも1匹釣れたよ!

## 川の楽しさ、見つけたよ

6月4日、小中学生を対象に小畔川（小堤）で埼玉県釣りインストラクター連絡機構川越支部主催の「魚つり体験教室」が行われました。釣りざおを持つ子どもたちの目は真剣そのもの。オイカワやアブラハヤを釣り上げると、目が輝きました。「釣りって楽しいね」「もっと釣りたい!」と、早くも釣りに夢中。来年もここで行う予定です。また、子どもたちの元気な声が聞けそうですね。



釣りを楽しんだあとは、みんなで川のゴミ拾い。釣りだけでなく、マナーも学びました

## 季節の花々が彩りを加えます

6月5日、季節の花の植栽が、川越駅西口市有地暫定自由広場で行われました。植えられた花は、川越総合高校の生徒の皆さんが丹精込めて育てた10種類、1,500本です。同校の生徒と地域の皆さん合わせておよそ120人が参加しました。ゴミのポイ捨て防止と同広場が市民の皆さんの憩いの場になることを目的に行われ、今では春と秋の恒例行事になっています。秋の植栽は、11月を予定しています。



参加した高校生・地域の皆さんといっしょに花を植える舟橋市長



会場が一体となってハワイアロハを歌いました

## やまぶき会館にハワイの風

「フラフェスティバル2006 in Kawagoe」が6月11日、やまぶき会館で行われました。市内外の5団体が参加し、全部で35のフラダンスを披露。満席の会場からは、1つの曲が終わるごとに大きな拍手がわき起こります。最後には、出演した団体の皆さんが舞台上がり、客席の皆さんも総立ちで、「ハワイアロハ」という曲を歌いました。会場には南国のさわやかな風が吹き抜けていきました。



小江戸ペタンククラブの皆さん

「練習は、和気あいあいとしていて楽しく、時間など忘れてしまいます」と、クラブの皆さんは笑顔で話していました。「ペタンクは、たった一球で、形勢が逆転するおもしろさがあります。ルールが簡単で、誰にでもできます。これから川越でも普及するよう、お手伝いをしていきたいですね」と会長の山本俊雄さん（61歳・野田）。市内のいたる所で、ペタンクを楽しむ姿を見かけることができます。日を夢みています。

小江戸ペタンククラブは、「楽しみながら健康づくりを」と市内に住む六十歳代の方を中心に結成されました。川越では唯一、定期的にペタンクの練習をし、埼玉ペタンククラブの県大会に参加しています。現在会員は二十一人で、毎月六回、滝ノ下公園で練習を行っています。ペタンクは、金属の玉を投げて的に近づけ、点数を競う競技で、カーリングに似ています。百年近くの歴史があり、発祥地のフランスでは、サッカー・サイクリング・テニスと並んで、とても人気があるスポーツです。



的を狙って

かわごえ  
越  
び  
と  
26